

<目的> 健康且つ合理的な衣生活を営むためには、衣生活全般についてバランスのとれた営みが必要とされるが、衣服行動に関する健康的把握はほとんどなされていない。そこで、WHO (World Health Organization) の健康の定義をベースとした衣生活意識項目を作成し、女子学生の健康的衣生活観を検討した。

<方法> 1) アンケート調査：広島県内に居住する19歳から20歳までの女子学生211名を対象に、1991年1月に集合調査法による質問紙調査を実施した。調査項目は、Physical的内容、Mental的内容、Social的内容とし、それぞれ20項目計60項目とした。各項目については6段階の選択肢をつけて評定に供した。2) 解析方法：調査によって得られた206名(有効率97.6%)のサンプルに対して60項目を変数として因子分析を行った。つぎに、各個人の因子得点を算出し、これをインプットデータとしてクラスター分析を行い、衣生活観の類型化を試みた。

<結果> 1) 因子分析の結果、固有値1以上の因子として9因子が抽出された。第1因子は、社会規範を示すSocial的内容であり、第2因子は、個性の表現を示すMental的内容、第3因子は、実用性を示すPhysical的内容であった。

2) クラスター分析の結果、女子学生の衣生活観は8つのクラスターに分類することができた。Physical的内容、Mental的内容、Social的内容の3領域共、望ましい方向にある学生の割合は20.9%、逆に望ましくない方向にある学生の割合は18.0%であった。